

研究テーマ：コミュニケーション力を高めるための指導の工夫

所属 馬路村立馬路中学校

氏名 公文 理記

RG JH 5

1. 研究の背景

本校は国道から約 20 km 入った山間部に位置しており、全校生徒 15 名という小規模校である。今年度の異動で本校に赴任して最初にとまどったことは、1 年生 4 名、2 年生 4 名、3 年生 7 名という少人数の授業の中での反応の少なさである。1 年生は比較的元気で、大きな声で発表したり、発音したりできているが、2, 3 年生は理解力はあるが、反応が少なく、英語での発表や、会話をすることに消極的な面があるように思われる。「生き抜く力をつける」という本校の教育目標の達成のためにも、英語でのコミュニケーション力を高めたいと思い、研究テーマを設定した。

2. リサーチクエスト

- ・コミュニケーション力を高めるには、どのように指導すればいいか。

3. 予備調査

授業中の反応が少ない生徒たちと、「どうやったら 1 時間の英語の授業を短いと感じさせるような楽しい授業にすることができるか。」を悩んでいる時に、1 つの手がかりにしようと思って、「英語の授業に関するアンケート」を実施した。内容は、「①英語が好きか。②好きな英語の学習方法は何か。③好きではない英語の学習方法は何か。④やるべきだと思う学習方法は何か。」で、結果を見ると、やはり④の回答で 1 番多かったのは、Communication であり、Speaking、Reading、Writing と続いている。以下は回答結果である。

英語の授業に関するアンケート集計結果 (n = 15)

馬路村立馬路中学校 16041

	○ like English (7)			△ don't know (5)			× don't like English (3)			Total (15)		
How to learn English	○	×	☆	○	×	☆	○	×	☆	○	×	☆
Speaking	3	1	5	1	1	1		2	1	4	4	7
Reading	3	2	3	1		2		2	2	4	4	7
Listening	4		1	1		1	1			6		2
Writing	2	2	3	2	1	3		2	1	4	5	7
Meaning	2	4	4		1				1	2	5	5
Words	2		2	1		3			1	3		6
Target Sentences	2		1			2		1	2	2	1	5
Communication	1	1	4		2	2		1	3	1	4	9
Worksheet	3	1			3	1		2	3	3	5	4
Song, Game, etc.	4			4			3			11		

好きな学習方法 (○) ・ 好きではない学習方法 (×) ・ やるべきだと思う学習方法 (☆)

4. 仮説の設定

仮説1 英語で会話する場面を多くしたら、英語を話すことが自然にできるようになるだろう。

仮説2 自分の考えを話す機会を持てば、気持ちを込めて、感情豊かにスピーチができるだろう。

仮説3 英語の発音やリズム、ジェスチャーなどを学習すれば、表現力が豊かになるだろう。

5. 計画の実践

- ・単語練習に十分時間を取り、CD を聞きながらの発音練習や、単語カードを1人ひとりが発音して、次の人に回していく方法や、ペアでの単語プリント発音練習等を行っている。
- ・1つでも多くの単語を知ることや、英語らしい発音やリズムを身につけるために、授業で英語の歌を歌うようにしている。
- ・週に1回、約10分間授業の始めに、<Questions & Answers> のカードを使って、お互いに会話練習をする時間をとっている。
- ・1対1で、できるだけ多く、ALT の先生と会話する場面をつくるように工夫している。
- ・スピーチテストを行うに当たって、自分の考えをまとめてから、英語になおしたり、スピーチを行う際の補助資料として各自が絵を描いたりして工夫した。
- ・アイコンタクトや豊かな表現練習、いろんなジェスチャー等を ALT の先生と練習した。

6. 実践の結果

- ・英語を発音することが楽しいと感じている生徒が増えてきたように思うし、授業中以外も生徒が英語を口にすることが多くなった。
- ・“質問→答え”だけでなく、さらに付け足して質問したりできるようになってきている。
- ・ALT の先生と1対1で、英語で話ができたと自信にもつながり、「もっと話がしたい」と思えるようになった生徒もいる。
- ・1学期に行ったスピーチテストよりも、表情が生き生きとしており、生徒が考えたさまざまなアイディアを取り入れながら、表現力豊かに自分のスピーチをすることができた。
- ・「授業が楽しい」「また、こんな授業がしたい」と生徒が言ってくれることが何よりも励みになる。

7. 結果の検証

- ・仮説1・2・3を実践していくことは、コミュニケーション力を高めるのに有効であることは立証されたが、単語力・文法力・音読力等全ての英語力が不可欠であることにも気づかされた。

8. 成果と課題

- ・説明を聞いたりノートに書いたりする受身的な授業は、生徒も退屈したり、理解しただけで身につけていないことも多いが、実際に生徒が発音したり、会話したり、教材（カード等）を使ったりして活動を伴う授業は、生徒が生き生きするし、授業が楽しく1時間が早く感じられ、また、やったことが定着するように思う。
- ・会話やスピーチテスト等も、ただ与えられたものをやるだけでは生徒も意欲がわからないが、自分の興味があることや自分からしたいと思う内容のもの、また自分が考えたり、資料を作ったりして強い思いがあるものは、自分からどんどんがんばれるし、それだけの力が身に付いていくことが実感できた。
- ・生徒とのいい人間関係を作ることと、生徒一人一人の能力を少しでも伸ばそうと意識しながら、十分な教材研究をして授業を組み立てていくことをおろそかにしてはいけないと再認識した。
- ・生徒に話す力やコミュニケーション力をつけさせようと思えば、教師自らも学習し、自分の英語能力を伸ばしていかなければいけないと痛感している。